

日 日 新



経団連日本トルコ経済委員長
IHI 社長

井手 博
いで ひろし

私の社長就任は2020年、コロナ禍とともにス

タートした。世界中が先の見えない不安に包まれ、会社としても社会としても「明日がどうなるか見当もつかない」状況だった。そのような中、新米社長として最初に始めたことは、日々の反省を書き残すこと、書き殴ることだった。日記のような構えたものではなく、ただその日一日の自分の失敗を書き留めるだけのものである。形式も決まりもなく、ノートに走り書きしたり、スマホにメモをしたり、その時手元にあるものに頼った。「明日」を思い悩む代わりに、「今日」一日の自分の失敗を振り返ることで次の日を迎える、という自分なりのルーティンになっていった。

たまに過去のメモを読み返すと、恥ずべきことばかりが並んでいる。「あの時、こんなことを考えていたのか」「こんなばかなことをしたのか」と赤面する内容ばかりだが、それでも当時の自分を記録した痕跡を見直すことは、自分にとって非常に大事だと感じている。

一方で、どこに何を書き残しているのか、最近ではわからなくなること多くなってきた。字を書く機会も激減している。このままでは、記憶力や識字能力まで少しずつ退化していくのではないかという危機感も覚え始めた。そこで、改めて紙のメモ帳を買って、寝る前に少しだけ時間をつくって、必ずペンを持って書き残す形に変えることにした。

スマホ、スマートウォッチ、PC、そしてAI。便利な技術に支えられた暮らしの中で、「そういえば昔は取引先から社内の内線番号まで、全て覚えていたな」と思うことも多くなった。知らぬ間に失いつつある記憶力や識字能力の回復も兼ねて、あえて手で字を書くという一日の締めくくりを、これから毎日続けていきたい。そして、今日の失敗をその日のうちに言葉にして外に出し、その日のうちに終わらせたいと思う。このことが、社長として、そして一人の人間としての自分を整える大切なひとときになると信じている。